

# 西田 IV 遺跡

前橋・玉村線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



# 西田 IV 遺跡

前橋・玉村線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



# 序

前橋市は、雄大な裾野をひいてそびえる赤城山を北方に望み、市域を利根川が豊かな水を湛え貫流する県都であります。

今、緑豊かな環境づくりの基本計画に基づき「水と緑と詩のまち」を目指し、歴史・文化遺産の保護や緑の中の環境教育の整備を進めています。

関越自動車道の建設で首都への距離は、大幅に短縮されさらに北関東自動車道の建設による日本海側と太平洋側へのアクセスによってはかり知れない便益を生むことが期待されています。今回の調査も北関東自動車道へのアクセス道路として前橋市街から前橋南インターチェンジを通り玉村町方面の計画道路です。

西田IV遺跡は、その前橋・玉村線道路改築工事に先立って行われたものであります。この地域では、現在も水田が広がり、市内の農業生産主要地帯の一つに数えられています。近くには、古代の土地制度の名残といわれる公田の地名が残るなど、水田跡を研究するうえで貴重な遺跡が点在する所であります。調査では、1108年に噴火した浅間山の火山灰に覆われた平安時代の水田跡や中世以降の溝跡4条と、近世以降の溝跡2条、時期不明の土坑1基を検出することができました。調査範囲が限られているため水田区画等は、完全なもの検出には至りませんでしたが、本地域の歴史解明に貴重な資料を加えることができました。この調査報告書を刊行するに当たり、関係各機関並びに本遺跡周辺地域の方々の御理解と御協力に対し厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利



## 例　　言

- 1 本報告書は、前橋・玉村線道路改築工事に伴う西田IV遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市鶴光路町384-1, 307-1 番地外
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 渡辺勝利）が群馬県前橋土木事務所（所長 小野勝利）の委託を受け、調査と整理及び報告書刊行等の実務は、同調査団からの業務委託を受けたスナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
- 調査担当者 真塩明男・古屋秀達（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）  
　　荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
- 調　　査　　員　　勝田貞幸（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成10年12月15日～平成11年2月19日
- 整　理　期　間　平成11年2月20日～平成11年3月24日
- 5 調査計画面積 1,300m<sup>2</sup>
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…荻野博巳、調査助言…金子正人、調査員…勝田貞幸、測量…板垣宏・山口和宏、写真撮影…荻野博巳、安全管理(重機オペレーター)…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を荻野博巳、編集・校正…須永眞弘・金子正人、実測図の整理他…板垣宏・山口和宏、内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々（敬称略）  
　　飯島勝亥　飯島いし　石川サワ子　石田みよ子　今井つる　内山恵美子　高坂なみ　高坂やすの  
　　後藤きく江　後藤初治　青藤まき子　小林ひろ　岡根時太　高橋あき　高橋春江　都丸藤子  
　　桑島英彰　中川住一　佐々木孝浩　根井よし子　長谷川美津江

## 凡　　例

- 1 遺跡の略称は、10G32である。
- 2 遺構名の略称 溝跡…W、土坑…Dで表示した。
- 3 実測図の縮尺 A・B区平面図 1/100、1/300、1/1000、溝跡 1/40、1/300、土坑 1/40を使用。
- 4 押入図は、国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。基準点A-0 グリッド地点第IX系座標X 37040.000m、Y-65440.000m、水準点 BM.1…77.50m、BM.2…78.00m、等高線 5cm、グリッド 4m間隔
- 6 土層断面の土色名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人 日本色彩研究所監修）による。
- 7 土層注記及び本文中には As：浅間山の略称を使用し、断面図の地山部分に斜線を使用した。

## 目　　次

序	1. 調査方針	1
例　　言	2. 調査経過	3
凡　　例	IV 層　序	3
目　　次	V 検出された遺構と遺物	4
I 調査に至る経緯	1. 概　　観	4
II 遺跡の位置と歴史的環境	2. 平安時代水田跡	4
1. 遺跡の立地	3. 中世以降・近世以降の溝跡	4
2. 歴史的環境	4. 土坑（時期不明）	5
III 調査の経過	VI ま　と　め	6

## 挿 図

第1図 周辺遺跡図 (S = 1 : 25,000)	水田跡検出状況 (S = 1 : 1,000) ..... 7
第2図 遺跡位置図 (S = 1 : 2,500) ..... 2	第5図 A区平面・断面図 (S = 1 : 300) ..... 8
第3図 基本土層断面図 ..... 3	第6図 A区W-1～6断面図、D-1平面・断面図 ..... 9
第4図 西田IV遺跡・西田遺跡	第7図 B区平面・断面図 (S = 1 : 100) ..... 10

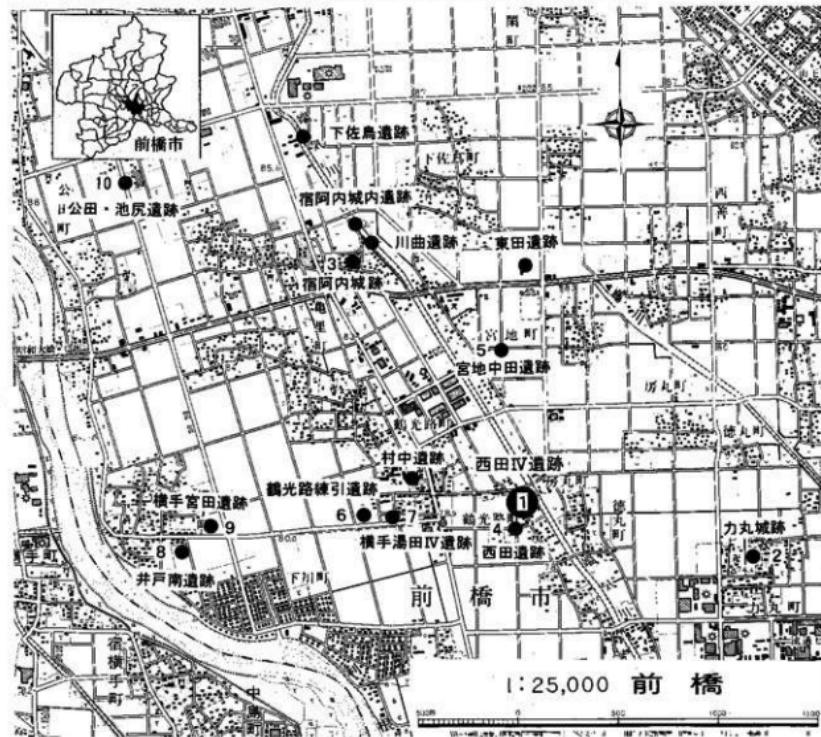
## 表

水田跡計測表 ..... 6
----------------

## 写 真 図 版

図版1 椰査前現況 (A区北から撮影)、椰査前現況 (B区南から撮影)、A区全景 (北から撮影)、A区全景 (南から撮影)、A区水田面状況、A区W-1～4 (右から) 全景、A区W-1東壁セクション、A区W-2・3東壁セクション

図版2 A区W-4東壁セクション、A区W-5 (右)・6 (左) 全景、A区W-1底部の掘り跡、B区全景 (西から撮影)、D-1完掘状況、A区深掘り土層断面、B区深掘り土層断面、出土遺物



第1図 周辺遺跡図 (S = 1 : 25,000)

## I 調査に至る経緯

前橋・玉村線道路改築工事（前橋市鶴光路町384-1、307-1番地外）に伴い、群馬県前橋土木事務所より埋蔵文化財についての照会が前橋市教育委員会にあり、これを受けて文化財の有無について事前協議を行った。その結果、前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）が平成7年度に実施した「西田遺跡」の調査で平安時代の水田跡等が検出されていることや、群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施している北関東自動車道建設に伴う発掘調査でも同様な遺構が検出されていることから、その隣接場所である当対象地に於いても、遺構の包蔵地であると判断されたため、道路改築工事の実施に先だって埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存することとなった。

発掘調査は、群馬県前橋土木事務所と調査団との間で委託契約を締結し、調査と整理及び報告書刊行等の実務は、調査団から業務委託を受けたスナガ環境測設株式会社が実施した。なお、遺跡名称「西田IV遺跡」の「西田」は、旧地籍の小字名を採用している。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

本遺跡は、JR前橋駅から南へ約5.7kmにある。関越自動車道高崎インターチェンジから県道27号線（高崎・駒形線）を東へ3km程進むと県道11号線（前橋・玉村線）と交差する。これを右折し1.5km程南下すると、北関東自動車道の本線工事が行われている。ここから細い路地を東へ0.5km程入ると本遺跡である。遺跡の東方約100mには、一级河川端気川が南流し2km程で、佐波郡玉村町との市町境で利根川に合流している。周辺の地形は、前橋台地南東端の後背湿地上に立地し、標高78m程の平坦な地形を利用し、現在も水田が広がっている。

### 2. 歴史的環境

現在、西田IV遺跡(1)の所在する鶴光路町周辺では、北関東自動車道の本線及び側道部分の建設が進められ、これに先立ち埋蔵文化財の発掘調査が行われている。本遺跡も近隣に建設予定である北関東自動車道の前橋南インターチェンジとのアクセス道路としての役割を持つ前橋・玉村線道路改築工事に先だって調査が進められている。この付近一帯では、浅間B鉄石（1108年降下）に覆われた平安時代の水田跡などの発掘調査が活発に行われ、その数も増加しつつある。本遺跡で検出されたものと同時期の水田跡が発見されている主な遺跡を挙げると、西田遺跡(4)、宮地中田遺跡(5)、鶴光路練引遺跡(6)、横手湯田IV遺跡(7)、井戸南遺跡(8)、横手宮田遺跡(9)、公田池尻遺跡(10)などがあり、この他にも現在発掘が行われている遺跡を含めて數多く点在し、古くから穀倉地帯として利用されていたことがわかる。また、鶴光路町の東側には、「房丸」、「徳丸」、「力丸」といった地名が残り、室町時代の城館跡である力丸城(2)や室町・戦国時代の宿阿内城(3)が代表されるように、中世の城館跡も重要視されてくる地区である。このうち力丸城は、那波氏一族がいたところで那波郡（現在の伊勢崎市宮栄から前橋市上川瀬・下川瀬に及ぶ地域）という広大な地域を支配していたという。この那波郡には、火雷（ほのいかざち）神社（現在の玉村町大字下之宮）や、倭文（しどり）神社（現在の伊勢崎市上之宮町）があり、延喜式内社に列せられている。

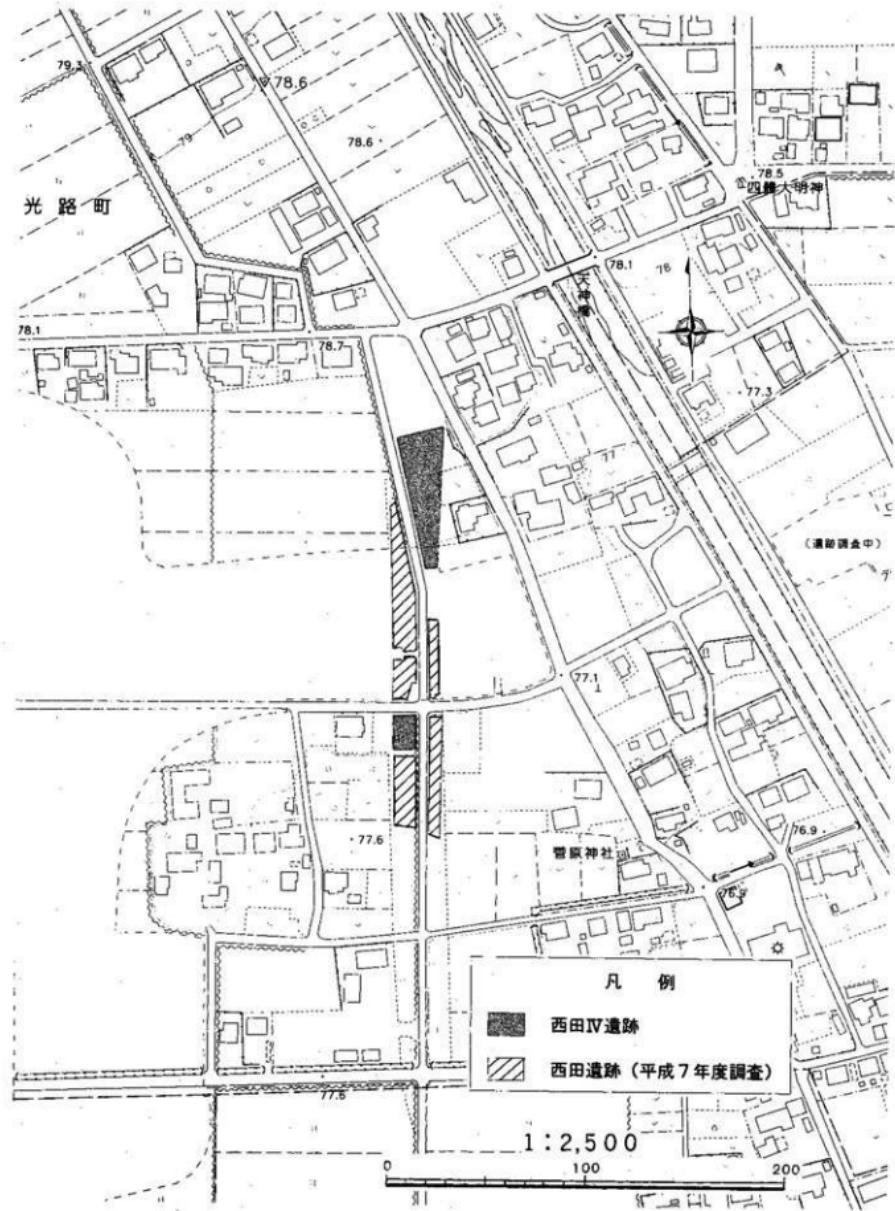
## III 調査の経過

### 1. 調査方針

調査区が、北と南2箇所に離れているため、大グリッド（100m×100m）を組んで北をA区、南をB区と付称し、グリッドの設定を行った。公共座標に基づき東西方向に延びる縦線に直交する経線を算用数字（1～24）で、南北方向に延びる経線に直交する縦線をアルファベット（A～Y）で付称して、4mグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。（例 A区A-1、B区A-1など）

また、水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

面図作成は、1/20・1/40・1/500の縮尺を使用し、平板・遺形による細部測量で作図を行った。また、遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。



第2図 遺跡位置図 ( $S = 1:2,500$ )

## 2. 調査経過

平成10年12月18日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレを設置すると同時に、調査区外周に、防護ネットを張り安全対策を行った。市調査団の指導のもと重機によるA区南側より表土掘削を開始し、並行して、人力による精査、遺構確認を実施した。引き続きB区も同様に作業を進め、As-B下水田跡の調査終了後深掘りトレーニチをA区・B区2箇所に入れ、下層の遺構確認を行った。

平成10年12月18日 資材・重機搬入、休憩所・仮設トイレ設置、安全対策用ネット張り

12月25日 重機によるA区表土掘削開始、人力精査開始

12月28日 基準点及び水準点取り付け測量、遺構平面・断面実測開始

平成11年1月11日 重機によるB区表土掘削開始

1月14日 A区全景写真撮影、B区人力精査開始

1月19日 B区全景写真撮影

1月27日 A区、B区深掘りトレーニチ掘削、実測図作成、写真撮影

2月19日 埋戻し作業完了、資材類の撤収

2月20日 整理作業開始

3月18日 印刷・製本

3月24日 整理作業完了

(発掘調査日誌抜粋)

## IV 層序

層序は、調査区内に入れた深掘りトレーニチをもとに、A区・B区それぞれ模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、深掘り土層断面写真は、図版2を参照。

### I 耕作土

II 灰褐色砂質土層 白色軽石をわずかに含む

III 黄褐色砂質土層 As-B軽石をわずかに含む

IV As-B軽石層

V 暗褐色粘質土層 白色軽石  $\phi 1 \sim 2$  mmをわずかに含む (B水田層)

VI 暗褐色粘質土層 白色軽石粒と橙色軽石粒をわずかに含む

VII 灰褐色粘質土層 白色軽石粒  $\phi 2$  mm程をわずかに含む

VIII 黒灰色粘質土層 細砂を含み鉄分の凝集、酸化が見られる

IX 灰色細砂層 水が流れた跡

X 灰白色粘質土層 わずかに細砂を含む

XI 灰白色粘質土層 X層より多く細砂を含み斑紋あり

XII 灰白色粘質土層 白色シルトを含み黄褐色のマンガン酸化跡あり

XIII 灰白色砂礫層 粘質土が混入

XIV 灰色粘質土層 細砂、小礫を含む

XV 黒色粘質土層 白色軽石粒をわずかに含む

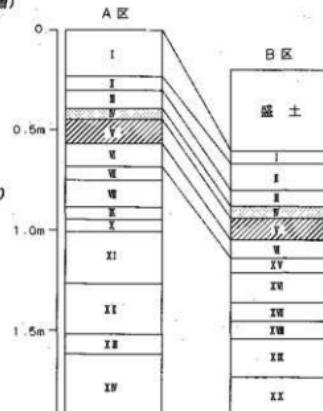
XVI 灰色粘質土層 As-C軽石をわずかに含む

XVII 灰白色粘質土層 XV層との混土層

XVIII 灰白色粘質土層 白色微砂を含む

XIX 灰色粘質土層 上部に細砂を含む

XX 白色シルト層



第3図 基本土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1. 概 観

A区・B区の調査では、As-B軽石下の水田跡13面と中世以降の溝跡4条、近世以降の溝跡2条、時期不明の土坑1基を検出した。特に水田畦畔の遺存状況は、B区で後世の擾乱により損われていた。

遺物は、須恵器・土師器片、土鈍、古銭（寛永通宝）、石など総数51点を検出した。

### 2. 平安時代水田跡

A・Bの調査区で検出された水田面は、現地表面より50～80cm程下にあり、5～10cm程のAs-B軽石が堆積していた。遺物は、全体で須恵器片1点、土師器片11点を検出した。

#### (1) 水田の地形

水田跡は、部分的な検出を含めてA区で9面、B区で4面計13面検出された。A区では、1号水田の標高77.65mから9号水田の標高77.40mまでの比高差25cmを持ち、全体の傾斜は北から南方向で約3.6/1000mの勾配が見られる。B区では、10・11号水田で標高77.15m、12・13号水田で標高77.10mを測り、5cmの比高差があり、全体傾斜も2.8/1000mでA区と同じ方向の勾配が見られる。A・B区共にこの勾配を利用して水田耕作をしていたと思われる。

#### (2) 畦畔と水田区画

この時代の水田区画には、条里制地割の名残が見られる区画や形状、大畦畔などが存在することがある。検出した畦畔は、部分的なものも含めて大きく分けると、A区で東西方向7本、南北方向1本、B区で南北方向2本、東西方向1本を検出した。方向はA区で東西方向N-50°～92°-E、南北方向N-12°-E、N-17°-Eの範囲で、B区では南北方向N-1°～4°-E東西方向E-Wを示す。A区では調査区に設定した座標軸よりずれが大きいに比べて、B区ではほぼ沿う方向の畦畔であることがわかる。またA区で検出した畦畔の規模は、上端幅20～45cm、下端幅30～85cm、高さ3～5cm程を測り、B区の畦畔では、上端幅15～35cm、下端幅50～80cm、高さ2.5～3cmを測る。断面の形状は、保存状態の良いもので扁平な台形状を呈する。区画は、畦畔が部分的検出のため全体は不明である。区画間をつないでいる畦畔は、A区の3号水田で1本見られたが、あとは調査区外まで畦畔が延びるため確認できなかった。また、水田に直接係わる溝や区画を構成する畦畔には、水口は、検出されなかった。

#### (3) 水田面の状況

確認面に於いて、A区・B区共にほぼ同じ厚さでAs-B軽石が堆積していた。A区では、ほぼ平坦で凸凹が少ない田面で、人の足跡と思われるものも確認されたが歩行方向のたどれるものはなかった。B区では、後世の擾乱が1m程の間隔を置いて東西南北に筋状となって水田面、畦畔を著しく傷めていた為、検出状況は良くなかつた。また、耕土状態は深掘り断面より水田に適した暗褐色粘質土層が10～14cm程の厚さで堆積し、さらに下層に暗褐色、灰褐色粘質土層が10～20cm程堆積していることから水田の水持ちを良好なものにしていると思われる。

### 3. 中世以降(W-1～4)、近世以降(W-5、6)の溝跡

#### W-1 [第5・6図、図版1・2]

A区のB-2～P-7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長56.7m、上幅24～42cm、下幅10～25cm、深さ5.5～14cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、As-B軽石層から水田土層まで見られ、覆土はAs-B軽石を含む灰褐色砂層で埋まっている。走行は、北西から南東方向にはば直線に延び、流水も北西側の溝底の標高77.53mから南東側標高77.31mにかけて流れたと思われる。また、溝底には半月状の掘削痕が残っていた。遺物は、土師器片1点を検出した。

#### W-2 [第5・6図、図版1]

A区のE-2～P-7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長47.8m、上幅30～42cm、下幅15～24cm、深さ6～17cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、As-B軽石層から水田土層まで見られ、W-3との重複部分は、W-3の覆土を掘り込んでAs-B軽石と暗褐色粘質土ブロックを含む灰褐色砂層で埋まっている。走行は、北西から南東方向に延び、途中のI-4グリッドまでW-3と同じ位置にあり、そこから先は2条に分岐

し途中でW-3と交差が見られ東壁側まで平行して走行する。流水方向は、北西側の溝底の標高77.50mから南東側標高77.31mにかけて流れたと思われる。また、同じ位置に平行してあることから溝の作り替えも考えられる。新旧関係は、W-3を掘り込んでいることからW-2が新しいと思われる。

遺物は、須恵器片1点、土師器片8点、石1点を検出した。

#### W-3〔第5・6図、図版1〕

A区のE-2～P-7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長48.0m、上幅24～36cm、下幅10～20cm、深さ4～11cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、As-B軽石層から水田土層まで見られ覆土は、As-B軽石を多く含む灰褐色砂層で埋まっている。走行は、北西側がやや蛇行しI-4グリッドまでW-2と同じ位置にあり、そこから先は2条に分岐し途中でW-2と交差し、東壁方向へ延びる。流水方向は、北西側の溝底の標高77.50mから南東側標高77.30mにかけて流れたと思われる。新旧関係は、W-2が掘り込んでいることからW-3が古いと思われる。

遺物は、須恵器片3点、土師器片4点、W-3,4範囲より土師器片3点、陶器片1点、土錐1点を検出した。

#### W-4〔第5・6図、図版1・2〕

A区のH-3～Q-7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長42.7m、上幅24～38cm、下幅10～20cm、深さ5.5～10.5cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みはAs-B軽石層から水田土層まで見られ、覆土はAs-B軽石と水田土層をわずかに含む灰褐色砂層で埋まっている。走行はW-2,3と平行し、北西側でやや蛇行しながら南東方へ延びる。流水方向は、北西側の溝底の標高77.45mから南東側標高77.27mにかけて流れたと思われる。

遺物は、検出されなかった。

#### W-5〔第5・6図、図版2〕

A区のO-2～S-6・7グリッドにかけて位置する。規模は、総延長17.6m、上幅86～120cm、下幅推定88cm、深さ2～3cmを測る。断面形状は、半楕円状を呈する。掘り込みは、にぶい褐色砂質土層下よりAs-B軽石を含む褐色砂質土層やAs-B軽石層とわずかに水田土層を掘り込んでいる。覆土は、As-B軽石と白色軽石を含む砂質土層で埋まっている。走行は、北西から南東方向へ延び、流水方向は、北西側の溝底の標高77.40mから南東側標高77.37mにかけて流れたと思われる。

遺物は、須恵器片3点、土師器片5点を検出した。

#### W-6〔第5・6図、図版2〕

A区のR-5～S-5・6グリッドにかけて位置する。規模は、総延長4.2m、他は、調査区外にある。掘り込みは、にぶい褐色砂質土層よりAs-B軽石と水田土層をわずかに掘り込んでいる。覆土は、にぶい褐色砂質土層に白色軽石及び、褐色粘質土ブロックを含む土層で埋まっている。走行は、北西から南東方向と思われるが大部分が調査区外にあるため全体は不明である。

遺物は、検出されなかった。

#### 4. 土坑（時期不明）〔第6図、図版2〕

A区のO-7グリッドに位置する。規模は、長径35cm、短径25cm、深さ18cmを測る楕円形。掘り込みは、水田土層を掘り込んでいる。覆土は、壁の土層断面に見られる新しい土層と類似する灰褐色砂質土層で埋まっていることから新しいものと考えられる。

遺物の検出はなく用途、性格は不明である。

水田跡計測表

番号	面積(m <sup>2</sup> )	東唯(m)	西唯(m)	南唯(m)	北唯(m)
A 区 1	(83.22)	—	(0.7)	(18.8)	—
2	(18.42)	(5.9)	—	2.3	—
3	(17.41)	6.7	—	3.7	2.3
4	200.65	—	(11.8)	(11.65)	(18.8)
5	108.05	—	—	(18.95)	(15.35)
6	158.60	—	—	(16.7)	(18.95)
7	182.19	—	—	13.85	(16.7)
8	161.95	—	—	(9.35)	13.85
9	83.27	—	—	—	(9.35)
B 区 10	35.40	5.6	—	6.6	—
11	30.05	—	5.6	5.65	—
12	21.02	12.75	—	—	2.9
13	117.29	—	12.75	—	9.35

1 畦畔の長さは、S = 1/40図上におけるセンター間の距離

2 水田面積は、検出面積を示す。算出方法は、S = 1/40の面図をコンピューター入力して算出

3 ( ) は、推定数値、その他は検出値を含む

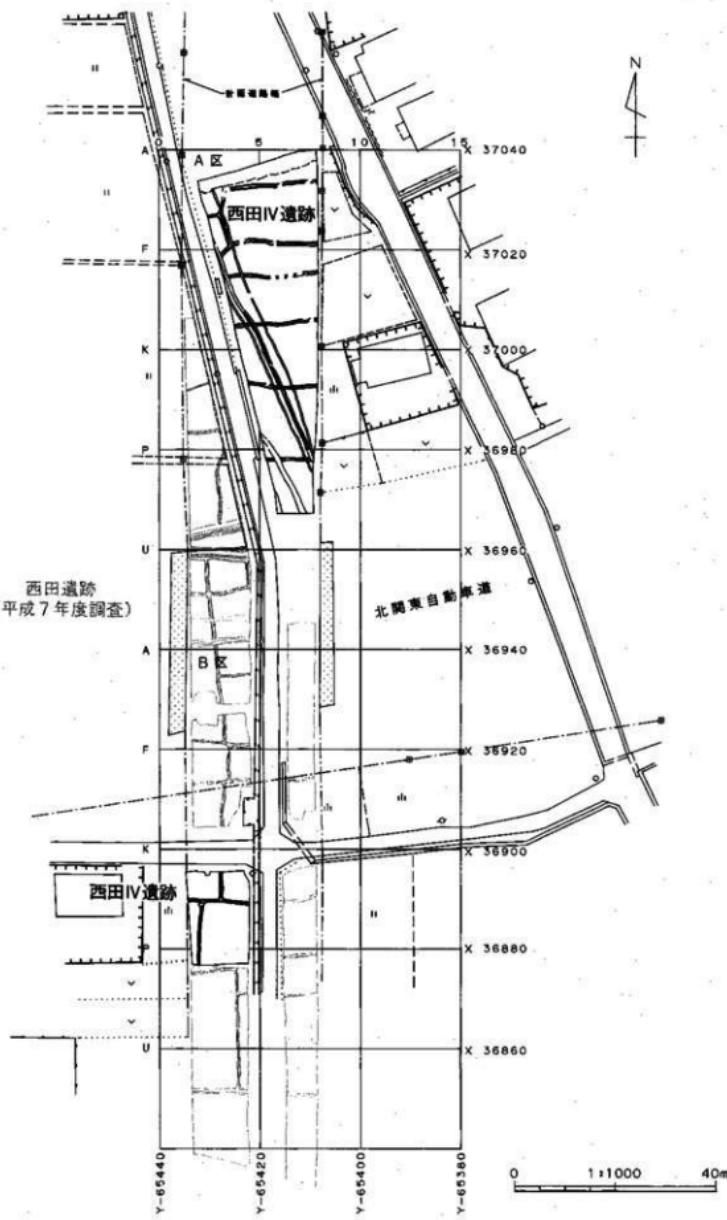
## VI まとめ

今回の調査では、平安時代(1108年)の浅間山の噴火に伴い降下した As-B 軽石に埋没した水田跡が A・B 区合わせて13面検出された。調査範囲が狭小ことで、四方を囲む完全な畦畔での水田区画は検出されなかった。そこで、本遺跡と条里制水田との関連を見ると、部分的に検出した畦畔の方向や、畦畔間隔などから見て、区画の規則性が薄れてきている点があげられる。また、隣接する西田遺跡で検出された東西方向に走行する他の畦畔より幅広な(100~110cm)大畦畔と思われる位置から本調査区の畦畔検出位置を想定すると A 区、B 区とも大畦畔に当たるものはなかった。一方で本遺跡の周辺では、西田遺跡をはじめ宮地中田遺跡、鶴光路線引遺跡など、同時代の水田跡からも大畦畔が検出されていることから本遺跡や周辺に於いて、条里制に関係する水田が展開されていたことがうかがわれる。また、北関東自動車道の建設に伴う遺跡調査が現在も続いていることから、今後の調査により水田跡の全容も解明されていくことと思われる。

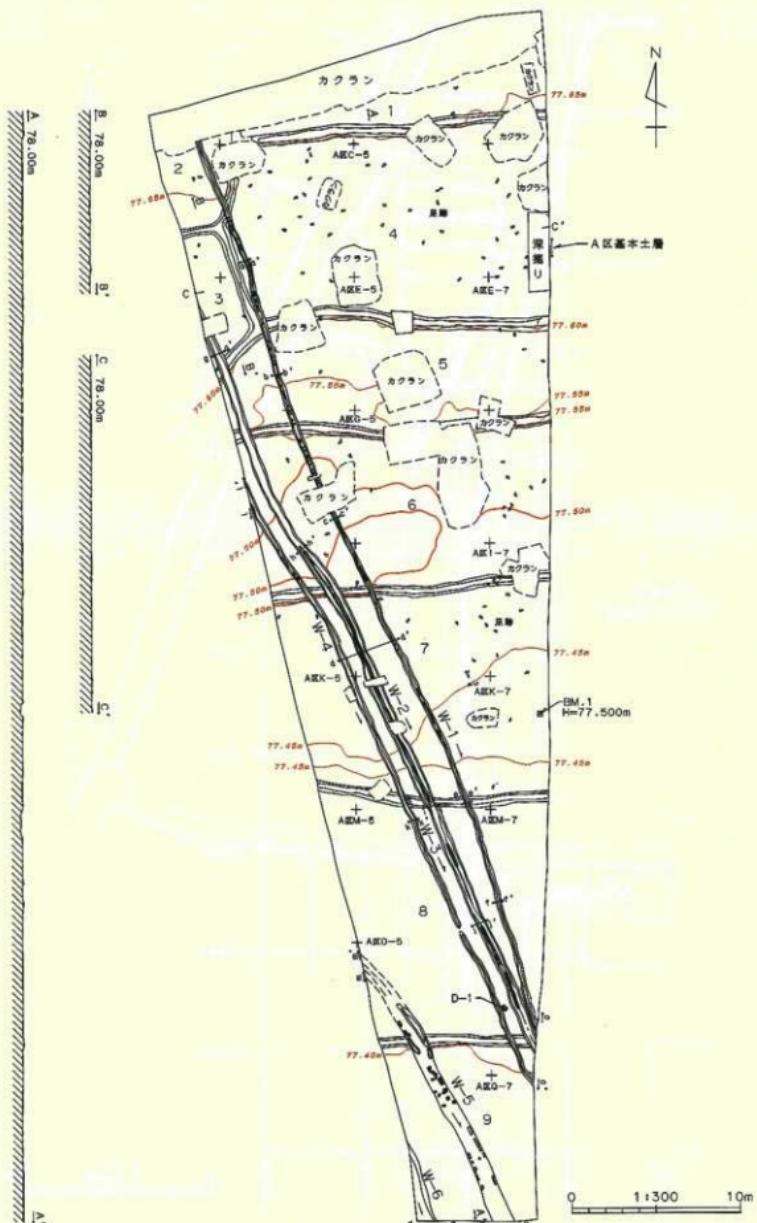
溝跡については、6 条とも調査区の As-B 軽石下の水田跡を掘り込んでいることや、覆土からも中世以降や近世以降に位置する溝と思われる。また、6 条とも北西から南東方向に掘られ、時期に違いが見られるが方向に共通性が見られた。さらに、As-B 軽石下の水田跡に関わる溝でないことで調査区東側に位置する「房丸」、「徳丸」、「力丸」という地名に関わる遺構とも考えられるが、断定するものは検出されなかった。また、土坑については覆土が新しいことで近代から現代に位置すると考えられる。

### 参考文献

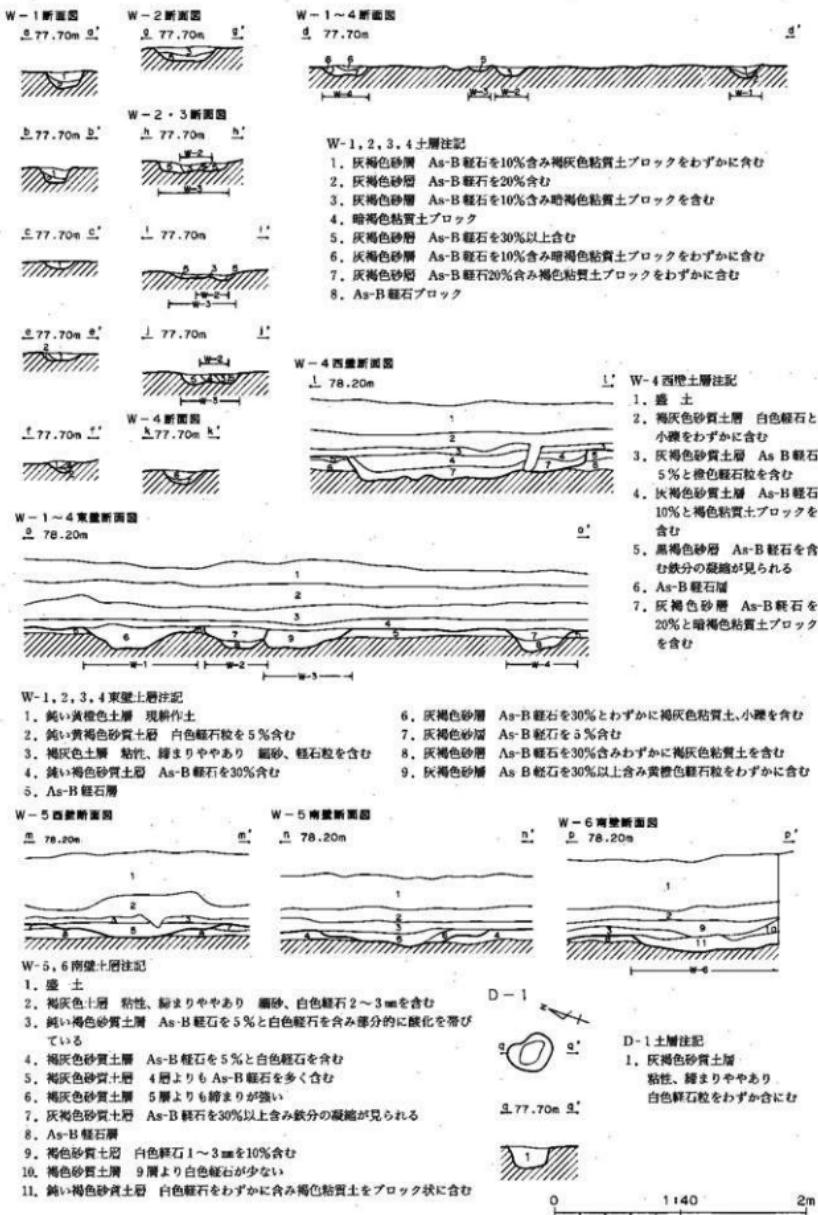
- 西田 遺跡 1996 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 五反田 II 遺跡 1995 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 六供下堂木II遺跡 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 宮地 中田 遺跡 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 鶴光路線引遺跡 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 大沢 遺跡 1997 高崎市遺跡調査会
- 日高 遺跡 (II) 1980 高崎市教育委員会
- 日高 遺跡 1982 群馬県教育委員会
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団



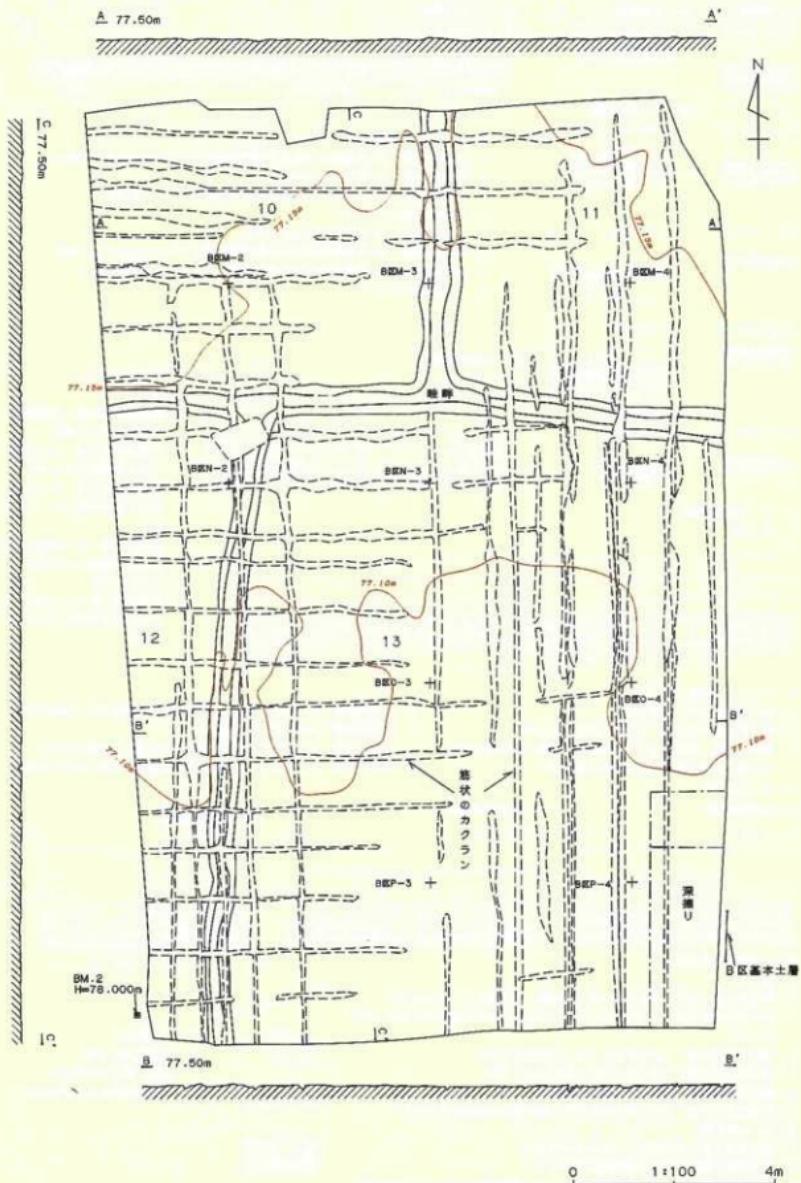
第4図 西田IV遺跡・西田遺跡・水田跡検出状況 (S = 1:1,000)



第5図 A区平面・断面図 (S = 1:300)



第6図 A区W-1～6断面図、D-1平面・断面図



第7図 B区平面・断面図 (S=1:100)

# 写 真 図 版





調査前現況（A区 北から撮影）



調査前現況（B区 南から撮影）



A区 全景（北から撮影）



A区 全景（南から撮影）



A区 水田面状況



A区 W-1～4（右から）全景



A区 W-1 東壁セクション



A区 W-2・3 東壁セクション

図版 2



A区 W-4 東壁セクション



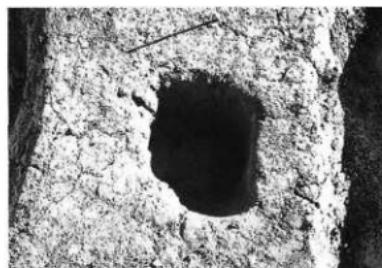
A区 W-5 (右)・6 (左) 全景



A区 W-1 底部の掘り跡



B区全景（西から撮影）



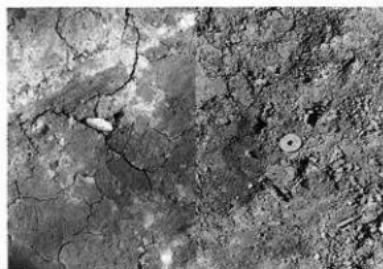
D-1 完掘状況



A区 深掘り土層断面



B区 深掘り土層断面



出土遺物

## 抄 録

フリガナ	ニシダヨンイセキ
書名	西田IV遺跡
副書名	前橋・玉村線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	スナガ環境測設株式会社 荻野博巳
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664番地の4
発行年月日	西暦1999年3月24日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ニシダヨンイセキ 西田IV遺跡	エニシダヨンイセキ 前橋市鶴光路町	10201	10G32	36°19'52"	139°06'16"	19981215 19990219	1300m <sup>2</sup>	前橋・玉 村線道路 改築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
西田 IV 遺跡	水田跡	平安時代	水田跡	須恵器・土師器片、石
	溝跡	中世以降	溝跡	4条
	溝跡	近世以降	溝跡	2条
	土坑	不明	土坑	1基
				なし

### 西田 IV 遺跡

1999年 3月18日 印刷  
1999年 3月24日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市上泉町664番地の4

編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1

